

温故知新

おおさとの史跡めぐり

標柱編

大郷地区町内連合会
大郷郷土研究会

おおさとの史跡めぐり



- ① 今塚遺跡
- ② 今塚の地名発祥の地
- ③ 今塚小学校跡地
- ④ やに目地蔵 (板碑)
- ⑤ 天神宮
- ⑥ 首切地蔵尊跡
- ⑦ 成安小学校跡
- ⑧ 中野城東御門跡
- ⑨ 中野城北御門跡
- ⑩ 金時橋 (板碑)
- ⑪ 中野城南大手門跡
- ⑫ 祇園通り跡
- ⑬ 七日市場跡
- ⑭ 誓願寺跡
- ⑮ 市神様
- ⑯ 史跡 宝光院跡
- ⑰ 史跡 高山彦九郎沐浴の場
- ⑱ 史跡 山形の表玄関河港荷揚げ場
- ⑲ 史跡 車ヶ淵
- ⑳ 史跡 船町渡舟場枅形跡

発刊にあたって

大郷地区町内連合会会長 笹 沼 光 雄

大郷地区内史跡標柱整備事業と並び冊子が発刊されました事、まことにおめでとうございます。

山形市では「いきいき地域づくり支援事業」の一環として大郷地区では平成十七年、十八年の二年間にわたってこれまで建っていた標柱が剥がれたりして損傷がはげしく判読できない状況であるため、ステンレスで覆い今後永く耐えられる標柱として再建されました。

これまでに「大郷の伝承」や「中野城について」と多くの冊子が発刊されました。今回の整備事業と冊子の発刊は連合会、郷土研究会の共同事業とはいえ、草薙明栄会長はじめ地域の多くの会員の全面的な支援を頂き達成することが出来ました。重ねて会員の皆様のご尽力に心から感謝申し上げます。

最後になりますが、大郷地区において二十ヶ所もの史跡標柱の建立に努力されました前郷土研究会武田恵一会長に感謝を申し上げ、この様な文化的跡と冊子を永く保存してこれらの若い地域の世代に継承し大郷の文化発展に期待するものであります。

史跡標柱冊子発行にあたり

大郷郷土研究会会長 草 薙 明 栄

この度、地区町内連合会と共に「いきいき地域づくり支援事業」に取組ませて戴き、史跡標柱の損傷がひどかった柱を新装改修することが出来ました。その記念といたしまして、地区民の皆さんに手元で地区内の歴史所在が分かる様にと一冊の冊子に纏めました。どうか御笑見の上、古里の古しえの歴史のロマンを描いて見ては如何でしょう。郷土研究会の先輩諸氏がそんな歴史を後世に伝えようと地区内より二十ヶ所を選び、平成二年より六年までに順次建設してくれたのであります。大いに研究資料として、又、健康のために史跡探訪等に御利用戴ければ幸甚です。

二年に渡ったの事業でしたが、変わらぬ御支援御協力に心から感謝とお礼を申し上げます。

一、今塚遺跡



古墳時代中期及び平安時代初期の複合住居である。平成5年5月に発掘調査されたもので、出土器として古墳時代の土師器、埴、甑、瓶などが出ました。平安期の物としては、須恵器、硯、管玉、紡織器木簡(853年)などがある。

二、今塚の地名発祥の地



現地は元屋敷跡と云われた所で、月山神社の西北約100m近くにある。現在此の所に昔あったと云う一本杉はなく、小さい石堂が建っている。(天照皇太神宮)



天保6年8月15日建立され、天神様と称している。
当初、見崎若衆で管理しておりましたがその後事情により（現天神町）
に管理を依頼して現在に至っている。
尚、天神町の名のおこりはこの天神宮に由来する。

五、天神宮



明治8年に学校として校舎が建ち、明治14年に見崎と合併する。
明治20年今塚尋常小学校となり、大正3年中野尋常小学校へ移ったの
である。

三、今塚小学校跡地



昔は中野から出羽、漆山や千手堂に行くにはうねうねした淋しい道で
あった。その中程の道端に右の地蔵尊が建っていたが首がなかったの
で、昔中野城時代の辻切りにまつわる伝説があり道行く人々の怖がら
れた所である。現在地蔵尊は圃場整備に依って天神町揚柳庵にある。

六、首切地蔵尊跡



昔、目が悪くなり目やにがでて困っている人がいました。子供のやに
目を布で拭いて地蔵につけてやに目を治したという伝説のある板碑
で、やに目地蔵尊と崇拝されていた。

四、やに目地蔵(板碑)



門の傍に樺の大木が茂っていた。見事な名木で中野城の面影を偲ぶ事が出来た北御門跡である。

九、中野城北御門跡



昭和52年、郷土研究会員によって服部地区より現在地に安置された。昭和37年の園場整備前は農道の橋として金時橋の愛称で使われていたのである。

十、金時橋(板碑)



明治36年6月8日、成安小学校を廃し、中野小学校に合併された。
成安公民館の位置石標 東経 140° 19' 10"
北緯 38° 18' 58"
標高 95.5 m

七、成安小学校跡



昔、中野城時代武士達がこの門を出て北上し馬洗場や馬場（馬合）への往来に使用された御門跡である。

八、中野城東御門跡



ここは中野城時代、七の付く日に四方から商人が集って市神様を中心に市場が開かれた所である。その繁昌ぶりは大変なものであったと言われている。尚、市神様は船町に移り、現在船町大日堂境内に安置されている。

十三、七日市場跡



前の道路は楯坂と呼ばれ、武士達が大手門の石橋を渡って登城した所である。
尚、中野の七石の一つと言われた南大手門の石（石橋か）は現在は見あたらない。

十一、中野城南大手門跡



現在の中野橋の南東たもと、草刈義勝氏の畑附近が誓願寺の跡であった。延文元年（1356年）斯波兼頼公が山形に入部の際、中野に上陸此の地に毘沙門堂を創設し、二代の直家公が誓願寺を建立した。その後慶長年間に義光公が「山形鉄砲町」に移転したと云う。

十四、誓願寺跡



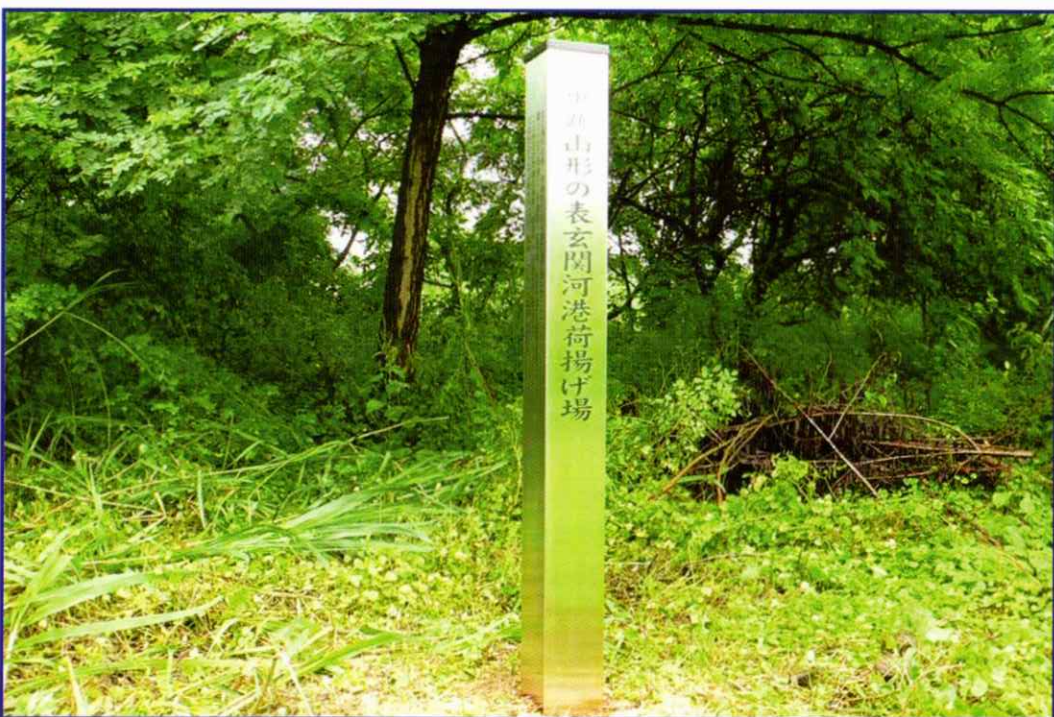
昔、中野城時代、この通りの周囲には武家屋敷の外茶屋などが多くあって、人々の往来が頻繁であった。夜ともなれば更に大変賑やかになるので、祇園通りと言われたと伝えられている。

十二、祇園通り跡



寛政の三奇人の一人勤皇の志士高山彦九郎は、諸国遊歴の際、寛政2年（西暦1790年）7月27日船町に至り茶屋兼宿屋の勘五郎宅に四泊し、その間毎朝須川で沐浴し身を清め、はるか宮城に向い礼拝し、船町を拠点として各地を見聞したといわれる。

十七、史跡 高山彦九郎沐浴の場



此の場所は昔舟運時代の荷揚げ場であった。最上川の三河港として酒田、大石田、船町と栄えた所である。この附近の間屋の荷倉に陸揚げされ各方面に輸送され、又此処からは上納米や紅花、青苧、漆などが荷積みされた。

十八、史跡 山形の表玄関河港荷揚げ場



市神様 商人の神様として昔より祀られ祭りの2月23日には甘酒を呑み祝った。羽角商店の前にあった。道路拡張の為大日堂境内に移転した物である。今も毎年2月23日には有志達でお祭りを行う。この市神様は元中野七日市場にあったものでその後船町に移転された。

十五、市神様



天長7年（西暦830年）天台宗座主慈覚大師が出羽の国に巡錫された時中野に山王大権現を勧請して一字を建立され、その別当として今の船町に宝光院を建設された。慶長6年（西暦1613年）山形城主最上義光公の帰依により山形市八日町天台宗妙円山形照寺宝光院として移転されたその跡である。

十六、史跡 宝光院跡

十九、史跡車ヶ淵



此の地には常設の船着場ではなく山辺方面の年貢米の輸送の時に限り開かれた所である。車ヶ淵の地名由来は天正12年（西暦1584年）7月貴船川合戦の砌り柴橋領主橋間勘十郎頼綱が車掛りの戦法を用いたので車ヶ淵と言う地名が生まれた。

二十、史跡船町渡船場枅形跡



石柱には説明なし、南隣に枅形、渡船場の説明が記された掲示板が建っている。
応永元年（西暦1394年）渡船場が開かれ、通行人を取調べるための関所枅形も置かれたのである。渡船は兩岸に網が張られて渡っていた。

編集後記

大郷郷土研究会副会長 宮澤 武雄

「いきいき地域づくり支援事業」に依り、去年と今年の二年に渡り取組むことが出来、史跡標柱の新装改修が完成しました。

写真にあります様に、ステンレス板で柱を囲んで文字を特殊加工したものであります。この大郷地区の歴史のある所の史跡標柱ですので、末長く保存されて地区民に親しんで戴き、手短な歴史の参考として貰えれば幸甚の至りと思うものです。

標柱は郷土研究会の先輩諸氏が平成二年より六年までに二十ヶ所に建てられた物でしたが、一層皆さんに手短な資料となる様一冊の本に纏めて発行することになりました。今後の参考に御利用下されば幸いです。

最後に本事業に御協力下さいました方々に心から感謝を申し上げます次第です。

短歌一首

ふる里の 歴史を語る 標柱を

カラー冊子で 全戸に贈る

（松柏）

史跡標柱改修並びに編集委員

町内連合会	笹沼 光雄	森 定
公民館	設楽 茂郎	渡辺 和義
郷土研究会	草薙 明栄	宮澤 武雄
	阿部 金夫	海谷 知也
	今野柳太郎	多田 肥刈
	海谷 茂雄	角田 孝雄
	布施治左エ門	岩松 堅一
	板垣治郎右エ門	佐藤 栄一
	武田 恵一	伊藤久馬治
	近藤 都江	伊藤 鶴雄
	進藤 一男	丹野勘三郎

標柱施工者 タカデザインプロデュース

おおさとの史跡めぐり 標柱編

発行 平成十八年八月十日
発行者 大郷地区町内連合会代表 笹沼 光雄
編集者 大郷郷土研究会代表 草薙 明栄
印刷所 アベ印刷株式会社 草薙 明栄
山形市船町八二番地
TEL〇三六八一一九五一